

# 先端 IT 活用推進コンソーシアム (AITC)

## 第 二 回 総 会

## 議 案 書

2011 年 10 月 21 日(金)

於 日本ユニシス株式会社

## 目 次

第 1 号議案 2010 年度活動報告の件	
・ 活動実績.....	1-1
第 2 号議案 2010 年度収支報告の件	
・ 収支計算書.....	2-1
・ 貸借対照表・財産目録.....	2-2
・ 監査報告書.....	2-3
第 3 号議案 2011 年度活動計画承認の件	
・ 3年間の活動・運営方針.....	3-1
・ 2011 年度の活動計画.....	3-2
第 4 号議案 2011 年度予算計画承認の件	
・ 予算計画.....	4-1
第 5 号議案 2011 年度理事/監事選任の件	
・ 役員構成.....	5-1
付属資料	
・ 2011 年度活動のご紹介.....	i-1
～部会および協働プロジェクトの活動計画～	

**第 1 号議案**

**2010 年度活動報告の件**

**先端 IT 活用推進コンソーシアム**

# 1. 活動実績

1. 会員数 : 2010年09月08日(設立時) 会員:21会員(1特別会員を含む)  
 2011年08月31日 会員:48会員(5個人会員、2学会会員、3特別会員を含む)  
 2011年10月21日(第二回総会時) 会員:48会員(6個人会員、2学会会員、3特別会員を含む)

## 2. 活動実績

### 1) 総会

- ・設立総会開催

開催日 2010年9月8日  
 開催会場 日本ユニシス株式会社 本社(豊洲)  
 参加者数 49名

- ・ML 総会 2011年1月24日~2011年2月4日 理事追認の件

### 2) 理事会 : 開催2回、ML 審議8回

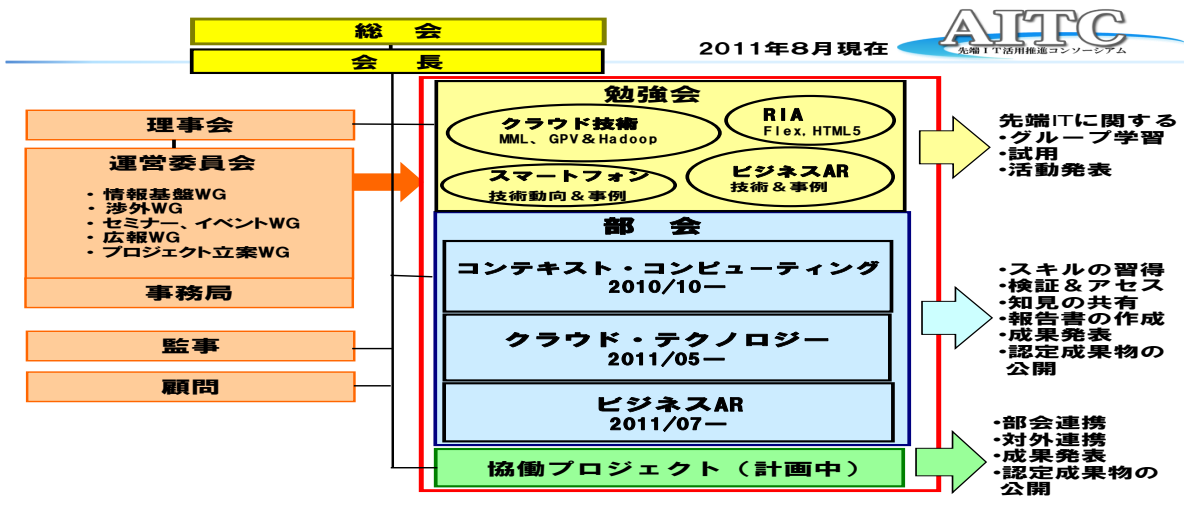
- ・理事会 :2010年09月08日、2010年11月26日(2011年09月30日)
- ・ML 審議:2011年01月21日~2011年01月27日 理事、運営委員追認の件
- 2011年03月04日~2011年03月18日 実施細則の発効に関する件
- 2011年03月30日~2011年04月06日 クラウド・テクノロジー分野の活動部会化に関する件
- 2011年05月30日~2011年06月06日 「ビジネス AR 研究部会」新設の件
- 2011年06月27日~2011年07月04日 SNS運用ルールに関する件
- 2011年06月27日~2011年07月04日 AITCサイトへのリンクに関する件
- 2011年07月04日~2011年07月11日 会員アンケートに関する件
- 2011年07月14日~2011年07月21日 特別会員登録の件

### 3) 運営委員会 : 開催11回、ML 審議5回

- ・運営委員会:2010年09月15日、2010年10月22日、2010年11月26日、2010年12月24日  
 2011年01月28日、2011年02月25日、(2011年03月 ML 運営委員会)  
 2011年04月22日、2011年05月27日、2011年06月24日、2011年07月22日  
 2011年08月26日(2011年09月30日)
- ・ML 審議 :2010年11月05日~2010年11月11日 「ソフトウェアジャパン 2011」協賛依頼の件
- 2010年12月09日~2010年12月14日 個人会員入会承認の件
- 2011年03月18日~2011年03月23日 入会承認の件
- 2011年03月18日~2011年03月23日 3月度 ML 運営委員会議案に関する件
- 2011年03月22日~2011年03月25日 入会承認の件

### 4) 2010年度の活動対象分野と体制

- ・クラウド・テクノロジー分野 (Hadoop, NoSQL など)
- ・インターネットデバイス・アプリケーション開発環境分野 (iPhone, iPad, Android など)
- ・リッチ・インターネット・アプリケーション(RIA)分野 (HTML5, Ajax など)
- ・コンテキスト・コンピューティング分野 (Semantic Web, Service Engineering など)
- ・ソーシャル・コミュニケーション分野 (Twitter, Facebook, OpenSocial など)
- ・実世界と情報世界の重ね合わせ分野 (AR など)



5) 主催イベント(セミナー、セミナー&勉強会、部会、活動報告会開催等): 計 31回

2010/09/08(水) 先端 IT 活用推進コンソーシアム設立総会記念講演 (49 名)  
2010/09/15(水) 先端 IT 活用推進コンソーシアム 2010 年度 活動紹介セミナー (49 名)  
2010/10/08(金) RIA 分野第一回セミナー&勉強会 (13 名)  
2010/10/21(木) クラウド分野第一回セミナー&勉強会 (14 名)  
2010/10/21(木) 第一回コンテキスト・コンピューティング研究部会 (21 名)  
2010/11/18(木) 第二回コンテキスト・コンピューティング研究部会 (22 名)  
2010/11/22(月) クラウド・テクノロジー分野 第二回セミナー&勉強会 (17 名)  
2010/12/02(木) RIA 分野第二回セミナー&勉強会 (63 名)  
2010/12/15(水) 第三回コンテキスト・コンピューティング研究部会 (21 名)  
2010/12/20(月) クラウド・テクノロジー分野 第三回 勉強会 (7 名)  
2011/01/06(木) インターネットデバイス アプリケーション開発分野第一回セミナー (68 名)  
2011/01/20(木) 第4回コンテキスト・コンピューティング研究部会 (14 名)  
2011/01/21(金) クラウド・テクノロジー分野 第四回 勉強会 (17 名)  
2011/02/16(水) 第5回コンテキスト・コンピューティング研究部会 (13 名)  
2011/02/18(金) クラウド・テクノロジー分野 第五回 ミーティング (10 名)  
2011/02/23(水) AITC Day 2011(第 1 回中間活動報告会) (41 名)  
2011/03 大震災発生に伴う活動自粛  
2011/04/14(木) 第1回ARセミナー(47 名)  
2011/04/18(月) クラウド・テクノロジー分野 第六回 ミーティング (9 名)  
2011/04/21(木) 第6回コンテキスト・コンピューティング研究部会 (9 名)  
2011/05/19(木) 第7回コンテキスト・コンピューティング研究部会 (20 名)  
2011/05/25(水) クラウド・テクノロジー研究部会 第一回ミーティング (18 名)  
2011/06/08(水) 第2回ARセミナー (42 名)  
2011/06/17(金) 第8回コンテキスト・コンピューティング研究部会 (17 名)  
2011/06/28(火) クラウド・テクノロジー研究部会 第二回ミーティング (15 名)  
2011/07/08(金) 気象庁防災情報 XML 実証実験 勉強会 (17 名)  
第 1 回ビジネス AR 研究部会 (19 名)  
2011/07/15(金) 第9回コンテキスト・コンピューティング研究部会(14 名)  
2011/07/27(水) クラウド・テクノロジー研究部会 第三回ミーティング (14 名)  
2011/08/11(木) ビジネスAR研究部会 第二回ミーティング (19 名)  
2011/08/22(月) クラウド・テクノロジー研究部会 第四回ミーティング (12 名)  
2011/08/24(水) 第 10 回コンテキスト・コンピューティング研究部会 (13 名)

延べ参加者数 (2010 年 9 月~2011 年 8 月)

総数	724名
会員	593名
非会員	129名 (セミナーおよび勉強会・部会へのお試し参加を含む)
プレス	2名

6) 部会活動

- ・部会開催(月次)+部会 SNS(日次)
- ・リーダー会議(月次)

① コンテキスト・コンピューティング研究部会(2010 年 10 月~) 参加者:計 164 名(内、非会員のお試し参加 15 名)

当部会では、コンテキスト・コンピューティングをデータの関係性をコンテキストとして捉え、意図に基づき表現・記録・活用する情報活動と定義し、人と人、人と物事、人と環境(人と機械)の関係性を対象とする。

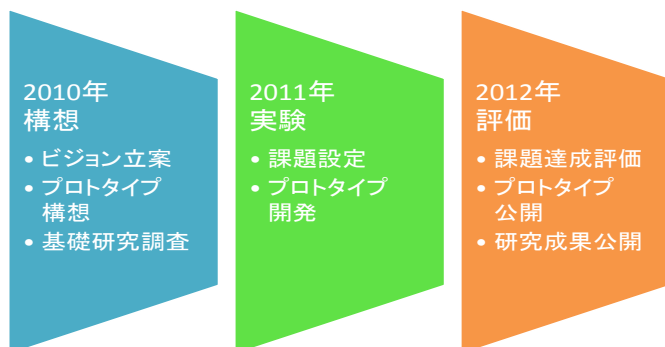
活動:3つのワーキンググループと2つのタスクフォース

<ワーキンググループ>

- ・Context Enabled Architecture (CEA) WG: 何かを作る(何かを作りたい)
- ・HCI WG: Human Centric Interaction を考える
- ・技術調査 WG: CC実現に必要な技術を調査する

<タスクフォース>

- ・ビジョンを創造するタスクフォース
- ・CCがある身近な生活のシナリオを考えるタスクフォース



Copyright © 2010 Advanced IT Consortium to Evaluate, Apply and Drive All Rights Reserved. 25

- ② クラウド・テクノロジー研究部会(2011年5月～) 参加者: 計59名(会員のみ)  
半年間に亘る勉強会での下記活動を踏まえ、より深化した活動を行うため部会化
- ・主としてMML(Medical Markup Language)とGPV(Grid Point Value)を例題にとり、データ特性とHadoopとの相性などを検討
  - ・各自のPCに環境を構築、Hadoopを使ってMMLの集計のハンズオンを実施

#### 活動

- ・MML (Medical Markup Language)を使った実証実験 (大量の、小さなXMLデータに対する集計処理)
- ・Mahoutを使ったレコメンデーション
- ・GPV (Grid Point Value)を使った実証実験 (大量データを人が理解し易いよう可視化)
- ・クラウド関連技術調査 (Hadoop以外のクラウド関連技術を調査)
- ・ガイドラインの調査 (クラウドが、各ガイドラインに適合するかを調査)
- ・勉強会の継続 (部会の活動成果を広く伝播するため、ハンズオン形式の勉強会を開催予定)
- ・その他 (その他のクラウドを利用したものについても随時、研究・検証予定)

- ③ ビジネスAR研究部会(2011年7月～) 参加者: 計38名(内、非会員のお試し参加 14名)  
ビジネスARの調査、研究、試作を軸に活動予定
- ・ビジネスを変革や拡大するARには、どのようなアプローチが必要であるかを研究・考察する。
  - ・進化の方向性として、スマートフォンなどの複数のデバイスとクラウド上のサービスが連携する分散環境下において、どのようにビジネスARを実現するかを研究・考察する。
  - ・現在使えるデバイスを使って、プロトタイプの開発と検証を実施する。  
最初のステップとして社会貢献につながる防災・減災や教育・福祉をテーマとした試作をおこなう。
  - ・近い将来のビジネスシーンを想定した取り組みを実施し、今後のビジネスARへの提言をおこなう。

#### 7) 外部組織・団体との協業関係(順不同)

- ・部会活動への協力・支援
  - 産業技術総合研究所
  - 気象庁
  - 消防庁 消防大学校 消防研究センター
- ・マーケティング活動支援
  - 情報処理学会
  - 日本経営協会
- ・メディア・パートナー
  - ITmedia エンタープライズ
  - COMPUTERWORLD

#### 8) 外部主催イベントに対する協賛、後援: 2回

- ・「ソフトウェアジャパン 2011」協賛 2011年2月3日 タワーホール船堀  
主催: 一般社団法人 情報処理学会
- ・「ネクストドキュメント 2011」協賛 2011年7月13日～15日 東京ビッグサイト  
主催: 一般社団法人 日本経営協会

#### 9) 外部セミナー等での講演: 2回

- ・「ソフトウェアジャパン 2011 ITフォーラムセッション」 2011年2月3日  
「コンテキストがオープンガバメントを具現化する～防災情報の個人化に関する研究事例～」  
AITC 副会長 田原春美 (ドリームIT21)  
CC研究部会リーダー 牧野友紀 (日本ユニシス株式会社)  
CC研究部会サブリーダー 和泉憲明 ((独)産業技術総合研究所)

- CC 研究部会サブリーダー 湯本正典 (株式会社日立ソリューションズ)
- CC 研究部会メンバー 小林 茂 (日本ユニシス株式会社)
- ・「ネクストドキュメント 2011」メインフォーラム 2011 年 7 月 13 日
- 「知的文書管理のための先端 IT による知識流通基盤」
- AITC 副会長 田原春美 (ドリーム IT21)
- CC 研究部会サブリーダー 和泉憲明 ((独)産業技術総合研究所)

10) プレス・リリース 2回

- ・「先端 IT 活用推進コンソーシアム」が発足  
～企業と社会における先端情報技術の活用と技術者育成の推進を目指して～ 2010 年 09 月 08 日
- ・先端 IT 活用推進コンソーシアム、「ビジネス AR 研究部会」を発足  
～スマートフォン、クラウド環境等での AR(拡張現実感)のビジネス活用を推進～ 2011 年 06 月 06 日

11) Web サイト更新

- ・コンテンツ更新(日時/随時)
- セミナー等開催案内
- 部会開催案内
- 協賛・後援イベント案内掲載

12) アンケート実施、公開

- ・「2010年度会員アンケート」
- 実施期間:2011年07月13日～2011年08月22日
- 公 開:2011年10月21日 (本会サイトに掲載)

**第2号議案**

**2010年度収支報告の件**

**先端 IT 活用推進コンソーシアム**



# 収支計算書

2010年9月8日から2011年8月31日まで (単位:円)

	予算	実績	差額	備考
<b>1. 収入の部</b>				
年会費	3,580,000	3,754,500	△174,500	<予算策定時>      <実数> 法人&個人事業主 前期 30社×10万円      36社 後期 10社×5万円      2社 個人会員 5名×1万円      5名 学会会員 10名×3千円      1名 <span style="float: right;">後期 1名×1.5千円</span>
XML コンソーシアム コミュニティからの譲渡金	363,355	363,355	0	
セミナー・シンポジウム等 参加費	90,000	123,000	△33,000	<予算策定時>      <実数> 非会員参加費による収入      非会員参加による収入 30名×3千円      7名×3千円 <span style="float: right;">懇親会参加による収入 34名×3千円</span>
雑収入	0	6,984	△6,984	寄付、受取利息
<b>収入の部合計</b>	<b>4,033,355</b>	<b>4,247,839</b>	<b>△214,484</b>	
<b>2. 支出の部</b>				
総会開催費	100,000	107,610	△7,610	懇親会費用、備品運搬費
セミナー、成果発表会等の 開催費	200,000	0	200,000	<予算策定時>      <実際> セミナー用品運搬費      経費の発生しない として計上      代替手段で実施
コンソーシアムサイト構築 初期費用	350,000	349,650	350	サイト構築費
コンソーシアムサイト運用費	80,000	46,640	33,360	レンタルサーバー料、ドメイン移管料
勉強会・部会活動支援金	500,000	124,872	375,128	HTML5セミナー逐次通訳料 情報交換会 外部講師料13名分 参考資料代
事務局経費	2,600,000	0	2,600,000	<予算策定時>      <実際> 専任事務局員費として      経費節減のため 20万円/月を計上      運営委員有志で代行
通信費	80,000	1,680	78,320	郵便、宅急便等の費用
事務消耗品費	20,000	4,661	15,339	事務用品費
雑費	0	2,568	△2,568	振り込み手数料等
予備費	103,355	16,700	86,655	名刺作成(会長、副会長、活動リーダー 7名分)
<b>支出の部合計</b>	<b>4,033,355</b>	<b>654,381</b>	<b>3,378,974</b>	
<b>次期繰越収支差額</b>		<b>3,593,458</b>		

**特記事項:**

1. 予算立案に際しては会員への会費還元を図ることを基本方針とし、勉強会や部会の活動支援に50万円を計上したが、多くの活動が資金を必要とするレベルにまでは至らず、発生した経費が少額であったため余剰が発生した。
2. 次期繰越収支差額が初年度総収入の85%に相当するが、これは運営委員有志で事務局業務を無償代行することで経費節減に努めたこと、かつ、無駄を排除する工夫を重ねたことによるものである。当余剰金は、今後の本格的な活動展開に向け、その原資として有効活用を図っていく。

## 貸借対照表

2011年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>【資産の部】</b>			
現金預金	3,693,458		
流動資産合計		3,693,458	
資産合計			3,693,458
<b>【負債の部】</b>			
前受金	100,000		
流動負債合計		100,000	
負債合計			100,000
<b>【正味財産の部】</b>			
正味財産			3,593,458
(うち当期正味財産増加額)			(3,230,103)
負債及び正味財産合計			3,693,458

## 財産目録

2011年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>【資産の部】</b>			
現金預金	3,693,458		
普通預金	3,693,458		
横浜銀行	3,693,458		
流動資産合計		3,693,458	
資産合計			3,693,458
<b>【負債の部】</b>			
流動負債			
前受金	100,000		
流動負債合計		100,000	
負債合計			100,000
正味財産			3,593,458

## 監査報告書

2011年9月22日

先端IT活用推進コンソーシアム  
会長 鶴保 征城 殿

監事

水谷 学 

私監事は、先端IT活用推進コンソーシアム会員規約第34条に基づき、本会の2010年9月8日から2011年8月31日における会計および業務について監査を行い、次のように報告します。

### 記

#### 1. 監査の方法と概要

- (1) 会計監査のため、帳簿ならびに関係書類の閲覧をし、貸借対照表、収支計算書、財産目録について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。
- (2) 業務監査のため関係書類の閲覧をし、業務執行について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。

#### 2. 監査意見

- (1) 貸借対照表、収支計算書、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法令および規約に従って、先端IT活用推進コンソーシアムの財産および収支を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容および業務執行に関して、不正行為または法令もしくは規約に違反する事実はないことを認める。

以上

**第3号議案**

**2011年度活動計画承認の件**

**先端 IT 活用推進コンソーシアム**

# 1. 3年間の活動・運営方針

## 1) 活動理念

- ・特定企業や団体からの独立性・中立性
- ・一社ではできない活動、競合関係を超えた活動
- ・外部組織・団体との協業
- ・人的ネットワークの構築
- ・成果物の公開

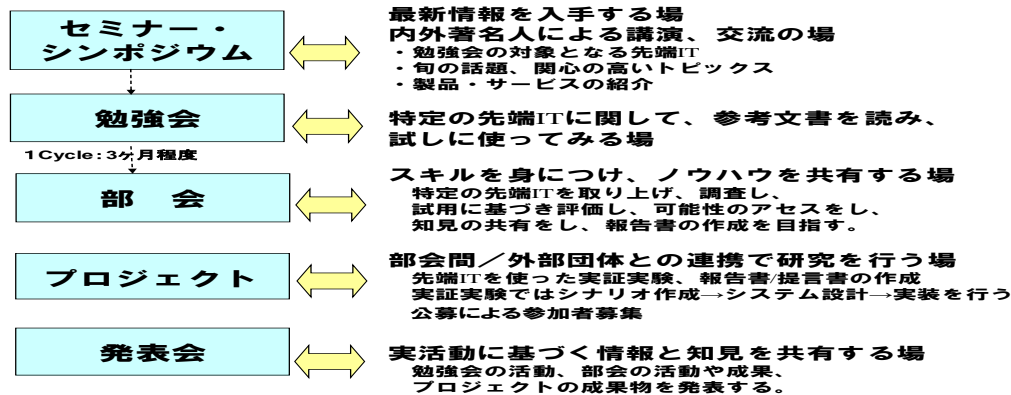
## 2) 活動の目的

昨今、ITの変化は急速に速まり、加えて、従来の発展の方向性とは大きく変わりつつある。

本会は、新しいIT(以下、先端ITという)の利活用を推進し、もってIT業界およびITが支える産業界、ならびに社会の発展に貢献することを目指し、技術者の自律的な活動を支援し、個々の技術者が先端ITを身につけ、今後の企業活動および社会の発展に活かすための活動の「場」を提供する。

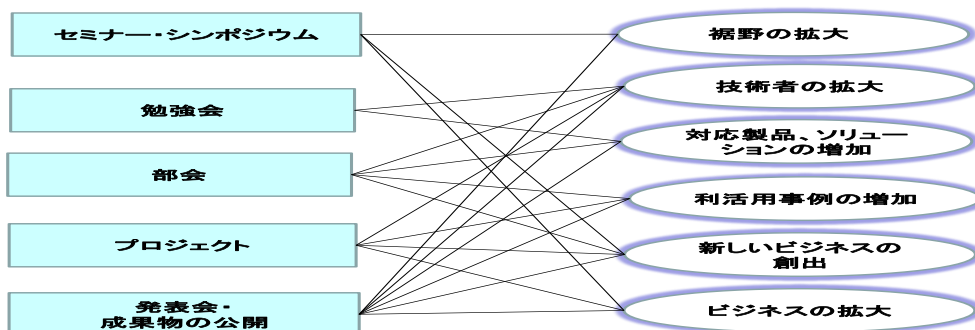
- ・日頃より関心はあるが実際には学ぶ機会のない先端ITに関する情報を、いち早く、そして幅広く、技術者に提供し、試用してみる場
- ・技術者が切磋琢磨しあって先端ITに関する情報と知見を習得し、共有する場
- ・先端ITを検証し、可能性をアセスし、良いものであればその利活用を推進する場
- ・いち早く次の先端ITを発掘し、紹介していく場
- ・先端ITに関する企業間交流の場

## 3) 活動の種類



- ① 勉強会では、早いスピードで次から次へと新技術が誕生する分野であることを意識し、特定の先端ITを短期集中(3ヶ月程度)で学習します。先端ITの動向を見ながら、そして会員の希望に副わせながら、旬のテーマを取り上げていく予定です。また、人気の高い先端ITに関しては、適宜、勉強会を繰り返す予定です。  
会員は希望する勉強会に何度でも参加することができます。
- ② 部会では、特定の先端ITを対象に、参加メンバーが活動期間と目標、そして具体的な活動内容や方法を定めます。定期的な活動を通して、また、すでに知見を有するメンバーとの交流を通して、参加者は特定の先端ITに関し知識とスキルを深め、ノウハウを共有することが可能になります。加えて、人的ネットワークを培うことができます。  
会員は希望する部会に、いつでも、いくつでも、参加することができます。
- ③ プロジェクトは、特定の目標(特定テーマによる実証実験、報告書/提言書等の作成)のために、一定期間、複数部会が合同で、あるいは、外部組織・団体と連携し活動します。実証実験の目的は、部会活動で得た仮説を検証することであり、外部との連携により、ユーザー視点での取り組み、データの提供、現場の助言等を受けられる利点があります。  
会員は公募に応募し、プロジェクトに参加することができます。

## 4) 活動の期待効果



## 5) 成果物

部会やプロジェクトの活動成果として、以下の成果物を想定する。

- ・試用・検討報告書、
  - ・実証実験報告書
  - ・事例集、ノウハウ集、活用提案あるいは提言書
  - ・プロトタイプシステム、報告書
- 会員限定：設計書、ソースコード、環境構築手順書  
一般公開：構築後のプロトタイプ

## 2. 2011年度の活動計画

### 1) 重点施策

初年度における会員数の推移や活動の状況を踏まえ、2年目となる今年度は各分野における活動のより一層の活性化・深化を図るとともに、新しい試みにチャレンジし、本会活動の意義や価値を高め、外部に対しても本会活動をアピールし、会自体の活性化を図っていく。

#### ・部会活動の活性化

部会毎に設立の時期や経緯は異なるが、いずれの部会も本格活動に向け体制や準備が整い、2年目の進展が期待できる状態にある。単一の分野に特化して調査、研究、実証検証等を実施する部会活動は、本会活動の基盤であり、それぞれの活動のより一層の活性化・深化を図ることで本会全体が活性化することが期待できる。

#### ・協働プロジェクトの実施

初年度から、各分野における活動、人的な繋がりや知見の交流は確実に行われているが、2011年度からは、「協働プロジェクト」として分野間の活動連携を図ることで、特定の技術のみならずシステム構築に必要な総合的な視点から先端ITを捉え、実践的な経験を積むことを目指す。

参加者はスキル・ノウハウを得るだけでなく、幅広い人的 & 知見の交流も期待できる。

#### ・“Touch & Try”イベントの開催

例えばAR等、身近に機器機材が揃わず、簡単に試用してみることが難しい先端IT分野（ただし、本会の活動対象である先端IT）に関し、関連企業・関係者の協力を得て“Touch & Try”式のイベントを開催する。主対象者は本会会員であるが、イベント自体は一般にも公開とし、本会活動を外部に広く発信する機会とし、会員増強に繋げる。

#### ・旬の技術情報の提供

後述2)の活動対象分野以外の先端IT分野については、会員の関心が高いものや注目すべき先端ITをテーマとしてセミナーや勉強会を開催し、旬の技術情報や学習の場の提供に努め、併せて初年度も好評いただいたその道の先達者との交流が図れるような場作りに注力する。そのステップの中で、本格活動への展開が見通せるものについては部会設立を目指す。

#### ・会員の増強

昨年9月に21社で発足し、この一年で48会員（学会会員、個人会員、特別会員を含む）に成長したとは言え、会員数が少ないため活動のスピードやダイナミックな展開にまでは至っていない。今年度は、ソーシャル・コミュニケーションの活用に加え、活動の活性化や魅力あるイベントの開催により本会の存在や活動を積極的に外部に発信し、知名度と認知度を上げ、会員増強と活動のパワーアップを図る。特に、法人会員については会員目標数を50に設定し、勧誘活動に注力する。

### 2) 活動対象分野

本会では、これからのビジネスや社会基盤を支えるであろう先端ITを取り上げ、新しいIT活用を拓くことを目指し活動している。会の名称と取り上げる対象分野が広いことから総花的だと言われることもあるが、ユーザー・インターフェースからデータ/情報、アプリケーション、そしてシステム基盤関連まで幅広い分野における先端ITをカバーしているからこそ、活動への関与の仕方次第で幅広いスキルやノウハウ、また情報や知見を得る機会があり、多様な人との交流も可能になることが期待できる。

このような視点に立ち、2年目も対象分野別の活動を中核に据えつつ、前項1)にも記述した通り、

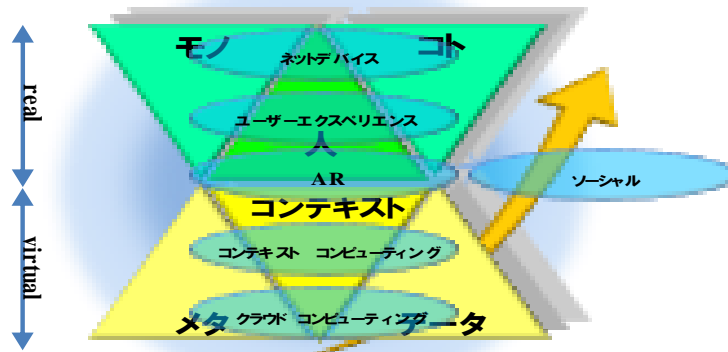
- ① 先端ITの動向に注視し、また、会員の要望を反映させながらスピーディーに、タイムリーに活動対象を更新していく。
- ② 部会活動を有機的に連携させることで、総合的な視点をもった活動を展開していく。

#### 【活動対象分野】

- ① クラウド・テクノロジー（Hadoop/NoSQL 等）
- ② コンテキスト・コンピューティング（セマンティックWeb/サービス・エンジニアリング等）
- ③ ビジネスAR（拡張現実（AR））
- ④ ユーザーエクスペリエンス技術（HTML5 等）
- ⑤ ネットデバイス アプリケーション（iPhone/Android等）
- ⑥ ソーシャル・コミュニケーション（facebook, Twitter, OpenSocial）

【活動対象分野の位置付け】

AITC's View

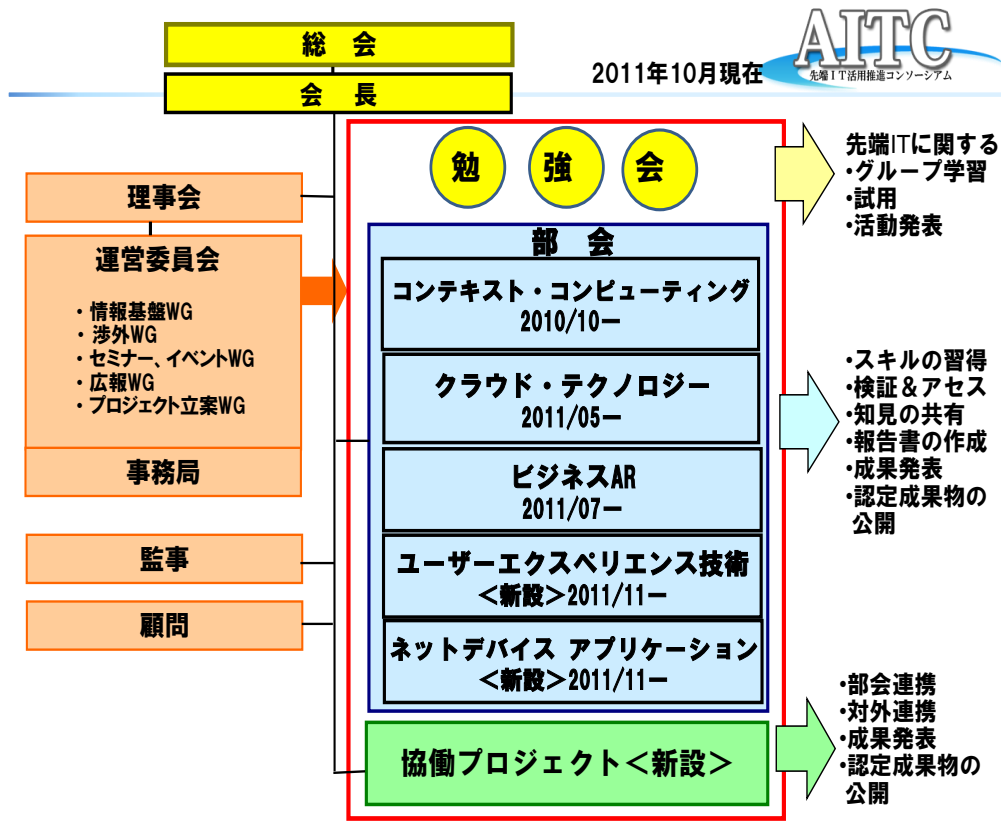


【新規分野への取り組みについて】

活動対象分野以外の先端ITに関しては、次の方法をもって会員からの要望を常時収集し、活動の立ち上げあるいはセミナー主催し旬の情報提供に努める。

- ① 会員 SNS に「わいがや会議室」を作成し、本会会員なら誰でも、いつでも要望、意見等何でも書き込み可能とし、新しい活動テーマ発掘の場、併せて、会員間の自由な交流の場とする。
- ② 運営委員会が、適宜、セミナーを企画、開催する。  
例えば、2010 年度会員アンケートで寄せられたCPS(Cyber Physical Systems)、Stream Computing、Bluetooth 4.0 等
- ③ 会員が提案し所定の手続きを経て活動を立ち上げる。  
会員規約第40条(勉強会)  
3 勉強会は、会員が提案し、理事会への報告をもって活動を開始する。  
会員規約 第41条(部会)  
3 部会は、会員が部会新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。

3) 体制



Copyright © 2011 Advanced IT Consortium to Evaluate, Apply and Drive All Rights Reserved.

注：部会および協働プロジェクトの活動計画については、付属資料「2011年度活動のご紹介」に記載。

#### 4)年間主要活動計画

(年次) 2011年10月21日 理事会、第二回総会、招待講演、懇親会  
 (月次) 運営委員会、部会リーダー会議  
 勉強会  
 部会  
 (日次) Web サイト更新作業  
 (随時) セミナー  
 活動/成果発表会  
 Touch&Tryイベント  
 他団体との交流会、情報交換会  
 取材協力  
 外部主催の催事に対する協力

#### (年間計画案)

2011年	10月	2010年度活動発表会 第二回総会
	11月	活動紹介セミナー
	12月	セミナー&情報交換会
2012年	01月	他団体との交流会
	02月	セミナー&情報交換会
	03月	
	04月	中間活動報告会
	05月	セミナー&情報交換会 Touch&Tryイベント
	06月	他団体との交流会
	07月	セミナー&情報交換会
	08月	2011年度活動/成果発表会

=====

9月	第三回総会、招待講演/セミナー、懇親会
----	---------------------

セミナーのテーマ候補: CPS(Cyber Physical Systems)、Stream Computing、Bluetooth4.0  
 SNSのビジネス利用と今後の動向、HTML5(Audio、Video API)  
 スマートフォン最新状況



## 第4号議案

2011年度予算計画承認の件

先端IT活用推進コンソーシアム

## 2011 年度予算計画案

2011 年 9 月 1 日 から 2012 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	2010 年度 予算	2010 年度 実績	2011 年度 予算案	備考
<b>1. 収入の部</b>				
前年度繰越	363,355	363,355	3,593,458	(2010 年度の予算、実績: XML コンソーシアムコミュニティからの譲渡金を計上)
年会費	3,580,000	3,754,500	3,766,000	法人&個人事業主 37 会員×10 万円 個人会員 6 会員×1 万円 学会会員 2 会員×3 千円
セミナー等参加費	90,000	123,000	84,000	非会員参加費による収入 18 人×3 千円 懇親会参加費による収入 30 名×1 千円
雑収入	0	6,984	5,000	支援金、受取利息等
<b>収入の部合計</b>	<b>4,033,355</b>	<b>4,247,839</b>	<b>7,448,458</b>	
<b>2. 支出の部</b>				
総会開催費	100,000	107,610	100,000	懇親会費用補てん、備品運搬費
セミナー、成果発表会等の開催費	200,000	0	500,000	外部講師交通費、セミナー用品運搬費
コンソーシアムサイト リニューアル費&運用管理費	430,000	396,290	300,000	リニューアル費:25 万円 xmlconsortium.org ドメイン更新料:5 万円
勉強会・部会活動支援金	500,000	124,872	1,200,000	クラウド基盤利用料(クラウド、CC): 34 万円 貸し会議室使用料(UX、NDA、AR): 63 万円 OS ライセンス料/登録料 : 2 万円 等
協働プロジェクト活動支援金			900,000	クラウド基盤の使用料(プロト構築): 24 万円 防災情報 XML 購入費 : 36 万円 気象情報&災害情報購入費 : 6 万円 機器レンタル料 : 10 万円 等
イベント開催費	0	0	1,050,000	会場費: 30 万円 機材費: 40 万円 会場装飾/造作費:10 万円 広告/チラシ:10 万円 会場運営費: 10 万円 等
事務局経費	2,600,000	0	1,520,000	事務局サポート要員費 (情報配信&サイト管理、会員管理&対応、 セミナー・イベント申し込み窓口&運営補助、 財務管理、経理業務、事務作業一般、対外対応等)
通信費	80,000	1,680	5,000	郵送料、宅急便費
事務消耗品費	20,000	4,661	10,000	
雑費	0	2,568	10,000	振り込み手数料
予備費	103,355	16,700	1,853,458	
<b>支出の部合計</b>	<b>4,033,355</b>	<b>654,381</b>	<b>7,448,458</b>	

**特記事項:**

- 今年度は特に法人会員の増強を目指す、年会費の収入については現会員数をベースに確実な収入額を計上。
- 会員への会費還元を基本方針とし、各部会の活動に必要な資金を充当するため、部会申請をベースに予算を計上。  
なお、会員による会場提供が難しくなっている現状を考慮し、確実な活動遂行を支援するため貸し会議室使用料を計上。。
- 事務局については作業負荷を考慮し、初年度の無償業務代行から順次体制化を図ることとし、サポート要員費を計上。
- 資金を担保する目的で、収入の 25%相当を予備費として計上。

## 第5号議案

2011年度理事/監事選任の件

先端IT活用推進コンソーシアム

## 2011年度 先端IT活用推進コンソーシアム役員構成

### 【理事候補】

アドソル日進株式会社	理事 生産技術部部长	野口 好博
イースト株式会社	代表取締役社長	下川 和男
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
株式会社 NTT データ	技術開発本部 IT 活用推進センタ センタ長	上島 康司
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CEO	平野 洋一郎
独立行政法人 情報処理推進機構	顧問	鶴保 征城
日本ユニシス株式会社	総合技術研究所 上席研究員	牧野 友紀
ドリーム IT21	代表	田原 春美
株式会社日立製作所 情報・通信システム社		
	ソフトウェア事業部 主管技師長	吉野 松樹
株式会社日立ソリューションズ	技術開発本部 研究部 部長	小野山 隆
富士通株式会社	計画本部 プリンシパルエキスパート	弘末 清悟
富士ゼロックス株式会社	執行役員	柳瀬 努
PFU ソフトウェア株式会社	基盤ソフトウェア統括部 UX 技術部 部長	松山 憲和
ピースミール・テクノロジー株式会社	代表取締役社長 CEO	林 浩一
リコーIT ソリューションズ株式会社	フェロー	飯沢 篤志

### 【監事候補】

ピー・シー・エー株式会社	代表取締役社長	水谷 学
--------------	---------	------

=====

参考:

【顧問】

慶応義塾大学 環境情報学部 教授	萩野 達也
名古屋大学大学院情報科学研究科 教授	山本 修一郎
早稲田大学大学院 情報生産システム研究科客員教授	丸山 不二夫
産業技術総合研究所 社会知能技術研究ラボ長	橋田 浩一

【運営委員候補】

アドソル日進株式会社	生産技術部	荒本 道隆
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CEO	平野 洋一郎
ウルシステムズ株式会社	テクノロジーセンター マネジャー	芦田 尚人
株式会社 NTT データ	技術開発本部 IT 活用推進センタ シニアスペシャリスト	遠城 秀和
	技術開発本部 IT 活用推進センタ 課長	高木 徹
日本ユニシス株式会社	総合技術研究所 上席研究員 総合技術研究所	牧野 友紀 小林 茂
ドリーム IT21	代表	田原 春美
株式会社日立ソリューションズ	技術開発本部 研究部	富山 全徳
富士通株式会社	計画本部	袴田 真史
富士ゼロックス株式会社	コントローラプラットフォーム第二開発部 マネジャー	道村 唯夫
PFU ソフトウェア株式会社	基盤ソフトウェア統括部 UX 技術部 部長	松山 憲和
リコーITソリューションズ株式会社	フェロー	飯沢 篤志

## 付属資料

### 2011 年度活動のご紹介

～部会および協働プロジェクトの活動計画～

クラウド・テクノロジー研究部会

コンテキスト・コンピューティング研究部会

ビジネス AR 研究部会

ユーザーエクスペリエンス技術部会<新設>

ネットデバイス アプリケーション部会<新設>

協働プロジェクト<新設>

先端 IT 活用推進コンソーシアム

## クラウド・テクノロジー研究部会

### ■背景

多種多様なクラウド関連技術がオープンソースや製品として出てきているが、「クラウド」という言葉の定義自体が幅広いため、企業内システムでの適用できる領域・効果が分かりづらい。そこで、クラウド関連技術の幅広い技術の情報収集をおこないつつ、Hadoop や NoSQL などの中で利用可能なものを実際に試用し、それらを使ってプロトタイプを試作してみることで、クラウドを企業内システムで活用するヒントや具体的なイメージを得るための活動を行う。

### ■活動目的

クラウド技術を企業内で利用するためのモデルケースやノウハウを調査、検討、プロトタイプ開発を通して習得し、そこで得た知見を勉強会・調査報告書を通して展開する。

### ■活動内容

- 1) 情報収集、事例研究  
クラウド関連の実装や技術に関する情報を収集
- 2) プロトタイプ作成  
企業内システムを前提としたプロトタイプを作成
- 3) 勉強会の開催  
プロトタイプを実際に触ってみて、知見を共有

### ■活動計画

- 1) 2011 年 10 月～12 月  
次の研究対象技術の検討・調査  
各種ガイドラインとクラウドの適合性について検討  
次期プロトタイプの設計
- 2) 2012 年 01 月～03 月  
調査報告書の作成  
プロトタイプを作成し、関連技術を蓄積  
勉強会を開催し、プロトタイプ作成で得た知見やノウハウを展開
- 3) 2012 年 04 月～09 月  
協働プロジェクトのプロトタイプ実装

### ■活動成果

- 1) 調査報告書
- 2) プロトタイプ

設計書

ソースコード

環境構築手順書

■活動方法

- 1) 月例ミーティングの開催
- 2) SNS 上での情報交換
- 3) ハンズオン形式での勉強会の開催

---

## コンテキスト・コンピューティング(CC)研究部会

■背景

物事は、人の認知の仕方によって異なった価値や意味を持つ。  
その価値や意味の違いは、対象とする物事と関連する物事の関係性の違い、つまり“コンテキスト”の違いに現れたりする。IT を使って人がこのようなコンテキストを自由に扱えるようになったら、人々のコミュニケーションが深まったり、人々が協同し活動する成果がもっと豊かになったりするのではないか。そんな思いでコンテキストをコンピュータで研究を行う。  
この研究活動において、コンテキスト・コンピューティングとは関係性をデータとして記録し、活用する情報活動であり、対象とする関係性は人と人、人と物事、人と環境である。

■活動目的

近未来の情報社会をビジョンとして描き、コンテキスト・コンピューティングにより個人と社会のインテリジェンスが階層的に連動する情報基盤を提言する

■活動内容

- 1) コンテキスト・コンピューティング先行研究・関連研究の調査
- 2) コンテキスト・コンピューティングにより実現するビジョンの創造
- 3) コンテキスト・コンピューティングの関連分野の調査と研究  
オントロジー、セマンティック Web、LOD (Linking Open Data) など最新技術の調査  
サービス工学におけるサービス・イノベーション・サイクルとコンテキストの研究  
HCI (Human Computer Interaction) の再考
- 4) ソーシャル・コンピューティング、グランズウェルのビジネスモデル事例の調査
- 5) コンテキスト・コンピューティングのアプリケーション検討、試作  
Machine, Human readable な LOD の試作  
Open Mind Common Sense など既存の知識体系を用いた小さなアプリケーション試作  
コンテキスト記述言語とコンテキストを考慮した検索システムの構想

■活動計画

コンテキスト・コンピューティングのコンセプトを体現するために、プロトタイプ・システムを開発する

■活動成果

- 1) コンテキスト・コンピューティングに関する Wikipedia 記事
- 2) コンテキスト・コンピューティングに基づくプロトタイプ・システム

■活動方法

- 1) 月次ミーティングでのディスカッション
  - 2) 関連技術識者によるセミナー実施
  - 3) オンラインでの記事執筆
-



## ビジネス AR 研究部会

### ■ 背景

急速なスマートフォンの普及に伴い、センシングとリアルタイムの映像の獲得も急速に普及してきている。また、スマートフォンの進化に伴い、スマートフォンの持つ性能も PC レベルの性能を保有するに至っている。このような中で、映像に対してリアルタイムな処理を施し、重ね合わせで現実を拡張する AR が身近な技術となってきており、特に AR の表現の面白さからエンターテインメントの世界での利用が始まっている。

しかしながら、AR にはエンターテインメントのための技術だけではない。視覚以外の拡張も実用化されてきており、人間の五感を拡張し IT と人間をつなぐ技術として、様々な可能性を秘めている。

その意味で、AR はまさに進化の過程にあり、ビジネス分野における AR の活用までには様々な検討が必要であると本部会では捉えている。

加えて、現在の AR はコンテンツの表現方法に集中しており、また AR コンテンツを目的としたビジネスは進んでいる一方、AR によるビジネスの変革や拡大は起こっておらず、手付かずの領域である。本部会では、このビジネスを AR で変革する領域をビジネス AR と定義する。

### ■ 活動目的

最先端の AR 技術の把握と習得およびビジネス推進力のある AR 適用方法について研究することを活動目的とする

### ■ 活動内容

前述の活動目的を達成するため、下記の活動を行う。

- 1) ビジネスと AR の相関関係を見える化し、AR の有効性を検証
- 2) ビジネス AR の実現方法とするプラットフォームについて考察と検証
- 3) AR 技術への理解を深めるための試作トライアル
- 4) 近未来のビジネスシーンにおけるビジネス AR への提言
- 5) 協働プロジェクトに参画し、AR の有効性を実証

### ■ 活動計画

前記活動活動目的を達成するために、2011 年度は以下の活動を行う

- 1) ビジネスと AR の相関関係の分析
- 2) 各種 SDK を利用した AR 技術実践トライアル
- 3) プラットフォーム化の検討

### ■ 活動成果

- 1) ビジネスと AR のマップ
- 2) ビジネス AR プラットフォーム(ソース、バイナリまたは規格書)
- 3) 技術トライアルレポート

- 4) 各種セミナー資料
- 5) 月例会議事録及び参考資料

#### ■ 活動方法

- 1) 月例会の開催
  - 2) 技術等の最新動向等を得るための外部講師によるセミナーの開催
  - 3) SNS を利用した意見交換や技術情報の交換
- 

## ユーザーエクスペリエンス(UX)技術部会 <新設>

#### ■ 背景

IT システムが、その機能面での優劣を競うだけの時代から、利用者にとって、どんな価値や経験を提供できるかが重要視される時代へと変わってきた。また、ユーザーエクスペリエンスを高めることは、コスト削減あるいは売上拡大というビジネス面からも重要性が増している。

これまで、RIA(Rich Internet Applications)技術によって、利便性や使い易いアプリケーションが Web を中心に広がってきた。また、スマートフォン、タブレット PC、スレート PC などハードウェア、そして、そのハードウェアで動作する iOS、Android、Windows Phone、Windows8 などの OS もより使い易いユーザーインターフェースを備えるようになってきている。

UI の点から見て、CLI→GUI への進化が、近年では、iOS のタッチインターフェースに代表されるように、より直感的で分かり易い UI が追求されるようになってきた。さらに Kinect のようなジェスチャーを使ったインターフェース、音声認識/合成、AR(Augmented Reality: 拡張現実)など、いわゆる人間自身の動きに連動したナチュラル・ユーザーインターフェースが、今後、益々広がりを見せると予想される。

優れた UX を提供する IT の実現には、RIA 技術やグラフィックデザインだけでなく、使い易さを追求するための人間工学や心理学、社会的あるいは文化的な状況への洞察など幅広い知識と経験が必要であり、一朝一夕に実現できるものではないが、先端 IT 活用推進コンソーシアムにおける活動を通して、IT の UX 向上に貢献していく。

#### ■ 活動目的

優れた UX を提供する IT を実現するための開発手法や技術の実践と習得を、活動目的とする。

#### ■ 活動内容

前述の活動目的を達成するため、下記の活動を行う。

- 1) UX を向上するためのプロセスの検討
- 2) UX を実現する(RIA 技術を中心とした)実装技術の習得と実践
- 3) UX の評価・検証手法
- 4) UX に優れたアプリケーションや IT システムの事例研究

## 5) 近未来 UX の検討

### ■活動計画

2011 年 11 月にユーザーエクスペリエンス(UX)技術部会を発足。

具体的な活動計画については、発足後となるが、活動内容の1~4をテーマに活動を行い、5の近未来 UX の検討を行う。

また、協働プロジェクトに部会として UX 向上という立ち位置で参画する。

### ■活動成果

- 1)UX を向上のためのプロセス ガイドライン
- 2)UX 評価・検証ガイド
- 3)UX に優れたアプリケーションや IT システムの事例集

### ■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催
  - HTML5 関係
  - METRO UI アプリ関係

---

## ネットデバイス アプリケーション(NDA)部会 <新設>

### ■背景

iPhone,Android、WindowsPhone といったスマートフォンが携帯性、瞬時起動、インターネット常時接続、快適な操作性を武器に、便利なクラウドサービスのフロントエンドデバイスとして情報の検索や共有、コミュニケーション、ライフログの記録などが日常生活の中で普通に行われる行為として認知されている。

一方、企業内における業務活用に目を向けると、一部を除き未だ PC の活用が中心であるが、今後は、スマートフォン、タブレット端末、スレート端末などのネットデバイスの企業内での活用が進むことが予想される。

### ■活動目的

スマートフォン、タブレット端末、スレート端末などのネットデバイスの特性を最大限に引き出した企業内における業務に活用できるアプリケーションの調査、検討、プロトタイプ開発を通してネットデバイスを活用した新しいビジネススタイルの在り方を提言する。

### ■活動内容

ネットデバイスの特性を生かした

- 1)企業内における業務シーンの調査
- 2)事例調査、研究
- 3)業務アプリケーション開発

を行うと共に

4)現在のネットデバイスの不足機能の洗い出し  
や

5)新しいビジネススタイルの提言  
を行う。

また、セキュリティや情報管理など業務利用に固有の課題への対応方法についても調査・研究を行う。

#### ■活動計画

2011年11月にネットデバイス アプリ研究部会の発足。

具体的な活動計画については発足後となるが、まず活動内容の1)～2)をスタート時のテーマとして活動を行う。また、2012年4月を目途に3)～4)をテーマの中心に据えて活動する。最終的に5)の提言を行う。

また、協働プロジェクトに部会として、ネットデバイスの有効活用という立場で参画する。

#### ■活動成果

企業内業務における

- 1)ネットデバイス活用事例集
- 2)ネットデバイスの特性を生かした業務シーンモデル/シナリオ
- 3)2)を実現するアプリケーション
- 4)業務利用に当たって、現状のネットデバイスに不足する機能要件
- 5)ネットデバイスの活用にもたらされる次世代ビジネススタイル提言

#### ■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

---

## 協働プロジェクト<新設>

#### ■協働プロジェクトの目的

- 1)一つのテーマのもと、本会が対象とする先端 IT 各分野の活動が集結、連携し、プロトタイプを構築することで、先端 IT の有用性を検証、評価する。
- 2)会員に先端 IT に関するスキルやノウハウ習得の場を提供する。
- 3)構築後のプロトタイプを一般公開し、試用してもらうことで、先端 IT の有用性を世に広く訴求し、利活用推進の一助とする。

#### ■協働プロジェクトのテーマ&名称案

テーマ案:「単に頭に入っている情報や知識に価値がある」状態から、「情報や知識を活用して行動し、日常

生活に活かすことに真の価値がある」との考えに基づく、収集した情報を知識化し、行動を促す・行動を引き起こす仕組みを作ること

名称案 : Leads to Action Project (LAP)

#### ■テーマ選択の背景

ネット上には多種多様なデータや情報が溢れており、検索ツールによって関連のデータや情報を収集することは容易にできる。しかしながら、収集した情報を知識化し、行動を促す、行動を引き起こすような仕組みはまだない。

情報は今後ますます増加していくわけであり、人間には適切なデータや情報を知識として集積し、これを行動に結びつけていく能力がますます必要になる。情報の海の中から検索者に適する情報を選び出し、個人化された形で行動のもととなる知識を提供できないものだろうか、我々自身が1ユーザとして日頃感じている要望をベースに、2011年度～2012年度の2年間プロジェクトとして、本会で取り上げている先端ITを取り込み、その有効性を検証しながら、“Leads to Action”を実現するためのプロトタイプ構築を目指したい。

データ (Data) : 基礎的な事実や資料



情報 (Information): データを人間が解釈した結果であり、一定の意味を持つ実質的な内容

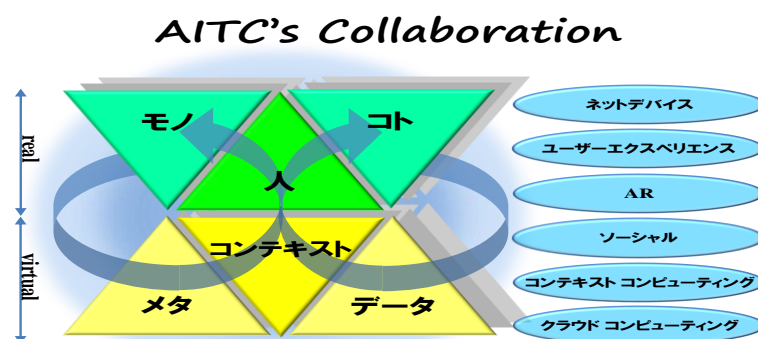


知識 (Knowledge): 人間の心に蓄積され、整理・分類され、記憶された情報



行動 (Action) : 知識を実生活の中に活かす

<概念図>



なお、今回のプロトタイプ構築では、すでに大量に存在する映像を含むデータ・情報を素材として災害関連情報の「知識から行動へ」に取り組みたく、本会特別会員である気象庁様、消防研究センター様、産業技術総合研究所様にご協力いただく。また、必要に応じて他団体とも連携・協力を図っていきたい。

過去に起きた数々の災害経験は風化させてはならないものであり、当時の情報を今に活かすことでこれから起こり得る災害に備える行動がとれるよう、そのために蓄積された大量のデータ・情報をどのような形で提示・

提供すれば意味があり、使われ役立つのか、その点を熟慮しながらプロトタイプを構築していきたい。

## ■活動内容

### 【2011 年度】

#### 1)2011 年 11 月～2012 年 3 月

- ・シナリオ検討（リーダー会が主導し、各部会との協議をもってシナリオを作成する）
- ・システム構成&アプリケーション検討
- ・各部会における実装や技術に関する詳細検討
- ・活動中間報告会における発表

#### 2)2012 年 4 月～2012 年 8 月

- ・各部会における実装
- ・繋ぎ込みテスト
- ・活動成果発表会における発表

### 【2012 年度】

- ・構築後のプロトタイプ公開  
会員限定公開を実施した後、一定期間、一般公開を実施予定
- ・外部の評価やコメントの収集・内容検討・評価
- ・活動報告書の作成、公開
- ・活動中間報告会および活動成果発表会における発表

## ■活動方法

- 1)リーダー会を中心に意見交換、進捗把握、調整
- 2)各部会における担当部分に関する調査、検討、実装の実行
- 3)部会間の意見交換会
- 4)発表
- 5)構築後のプロトタイプ公開等
- 6)プレスリリース

## ■活動成果案

- 1)一般公開  
活動報告書  
構築後のプロトタイプ
- 2)会員限定公開資料  
設計書  
ソースコード  
環境構築手順書

■特記事項

・本活動は、共同プログラムの開発ではないが、基本的な考え方や対処方法に多くの共通点があることから、実施に際しては会員規約および実施細則に記載された下記の関連条項や項目に準拠することとする。

－会員規約第 50 条（成果物の取り扱い）

－会員規約第 51 条（知的財産権）

－実施細則「共同プログラム開発に関して」

II. 公開・利用に関する原則

V. 成果物としての共同開発プログラムの取り扱いについて

VIII. 権利侵害への対応について